

【概 要】

平成28年度 東京都自立支援協議会第2回本会議 グループ討議記録（第1グループ）

〔第1グループ出席者〕

高沢副会長（進行）、鈴木（卓）委員、鈴木（康）委員、本多委員、山梨委員、和田委員

高沢 副会長	協議会の感想について
○	<p>参考資料2、3市区町村別の計画相談の実績は、地域差を見ることが出来、市区町村の状況を把握することで意味がある。今後も続けてほしい。</p> <p>セルフプラン率が高い区市町村は、セルフプランを望んでいるわけではなく、やり切れずセルフプランになっている。児童の率が高いのは親御さんが少しでも早くサービスを利用したいということで数値が高くなっている。杉並区は者、児ともにほぼ100%、セルフが0.1%となっており、取組を参考にしたい。</p>
○	<p>図1ライフステージの作成では汗をかいたという感じを持っている。</p> <p>人材育成については“かゆいところに手が届いていない”という感じがある。</p> <p>基幹センターの役割について、研修センターではない、現場と利用者とのニーズのすり合わせを含め、どのように行っていけばよいか、全く手を付けられていないと感じている。</p> <p>協議会が制度や施策に提言を含め、返していくこと、つなげていくことが見えていない、協議会と推進協との関わりもあるが、どうしたら良いか暗中模索、出来ていなかったと反省している。</p>
○	<p>制度上の役割を自分自身がよくわかっていなかった。協議会で話されたことと別の機関で話されていることがどうリンクさせていくのかがわかっていなかった。この2年間はテーマが相談員のスキルアップであったが、相談支援専門員の初任者研修、現任研修にどうつながっていたのかなど、協議会で話されていたことが反映されていたのかなと気付いたところがあった。協議会に参加されている都の方が、ここで話されていることを他機関に反映してくれているのか、その部分がもう少しはっきりさせられるとよいと思う。</p> <p>また、都は大きすぎる、区部、市町村部、島しょ等違いが大きすぎる、一緒に語るには無理があると思う、それをまとめるのは大変と思った</p> <p>話し合われたことの見える化がされるとよい。</p>
○	<p>相談支援専門員について、課題として難しかった。人材育成等課題を考えるのはおこがましいと思った。そうはいつでも、抽象的なイメージだったものが少しずつ具体化してきた。</p> <p>資料はよくできていたが、字が小さすぎる。</p> <p>茗荷谷の研修のアドバイザーとして出席してきたが、10年前に比べ、ケアプランに落とし込む等実践的な研修になってきて、進歩していると実感した。</p>

	<p>○ 協議会について検討することができ、濃い内容だった、いろいろな立場の方の話が聞けた。</p> <p>話されたことがどのように反映されていくのか。</p> <p>計画相談の実績は、自分の区は頑張っているが、まだまだと思った。協議会で話されたことを自分の区でも反映させていきたいと思った。</p>
高沢	実績が少ない区の状況について、実績がなぜ少ないのか。
	○ セルフプランにしていないからなのか。
	○ スタートが遅めだった。詳しいことはわからない。セルフプランはなるべくしない方針だった。事業所が少なく進められなかったことも要因か。
	○ セルフプランはいずれ作り直すのか。その後のモニタリングはどうなっているのか。
	○ 決まっていない。自分自身で作りたい人もいる。事業者を選択できず、とりあえず、サービスを受けるため、セルフの方もいる。モニタリングがなく、問題もある。
	○ 児の場合、放課後等デイサービスしか使っていないため、セルフにすることが多い。
	○ 児の場合、ライフステージサービスに沿って関わり続けるのが相談支援の目的だが、そうはならないのが課題。サービスを使うために必要だから計画を作ることになる。
高沢	協議会としての役割、これからを見通して思うことについて。
	○ 研修をやればよいということではない。OJTをやればということでもない。地域の特性を考え、具体的に見える化すること、基幹相談支援センターはどう使えばよいのかを含め答えがすっきりと出ない。地域でも違う。人材育成は育てる人も含め互いに育て、共感しあうこと。相談について、課題とは言わず、相談員も互いに自分たちの問題として共感していくこと。一般には障害の方を見たことのない人もいる。“一般の人と障害の方が一緒に交流する場を考える”ことも必要。
	○ 相談しやすい人としにくい人がいる。頭がよい、知識があるということではなく、“共感”をしてくれる人、信頼できる人が大事。
	○ 都の研修は理念が体系化されてきている、理念を都の研修で植え付けること。都の研修を終えた人が具体的なことは何も教えてもらえなかったと言うが、都はどのような人が必要かを伝え、区市町村がより具体的な部分を行っていくということを打ち出した方がよい。
	○ 区部でスキルアップ研修をしているところがある。市部では自分で研修を捜して行くことになる。区市町村レベルで具体的で身近なハウ・ツーを含めておこなっていくことがよいと思った。
	○ 理念を伝えていくことが必要。担当者が変わることもあるので繰り返し伝え続けること。都は理念を、地域では地域で必要なことを行っていくこと。
	○ 障害福祉ではサービスにつながらないものも計画に書いてある。そこが大事で、インフォーマルなこと、その人が大事にしていることの実現のため一緒に考えていくこと

	<p>が大事。そこが共感で、ベテランの相談員が“気持ちの部分大切に”と新しい職員にレクチャーしてくれるので、そこを大切にしたい。1人の事業所や100件もの担当を抱えていると現実的に本人の思いを乗せていくのは大変だろうと思う。</p>
高沢	<p>高齢福祉の方は進んでいて、サービスの選択ができる。高齢の方は地域の中に資源が多くあるが、高齢福祉と比べて、障害福祉は資源が少ないのでサービスの隙間を埋める作業をしていく。</p>
○	<p>例えば、障害の方が仕事を探すときハローワークでは見つからない。課題の整理が必要、でも仕事がない。高齢者の場合はデイサービス等の選択肢が多くあるが、障害者の場合は選択肢が少ない。</p>
高沢	<p>障害者の場合、働くか、のんびりするしかない。</p>
○	<p>紹介、案内するものがないので開拓していくのだが、相談員が商店に行って「仕事がありますか」と相談する時間、話す時間がない。お近付きになる時間がない。</p>
○	<p>府中市でアンケートを実施、相談件数の質問をすると、相談件数を40から50人を担当しているが、適正な人数は20人以内との答えが多い。</p>
○	<p>ケアマネは35件を受け持つ。 ライフステージを検討していく中で一人ひとりの問題だけではなく、家族の中に複数の問題を抱えている例も多くある。10人くらいであれば、家族のことも相談していきましょうとなる。そうすれば、商店街で話をする事が出来、仕事を一緒に探す事が出来、信頼も得ることが出来るのではないか。</p>
○	<p>当事者は相談支援専門員から声を掛けてもらえればうれしい。</p>
高沢	<p>今期の振り返り、活動について伺いたい。</p>
○	<p>本会議の回数が少なすぎる。</p>
○	<p>少なすぎる。</p>
他3名	<p>○ 部会を作る、作れないのであれば、他部署、例えば都の研修を行っている部署に理念を検討してもらい、協議会にリンクさせるなど。地域移行支援について、精神、知的では事業として定期的に会議をしているが、そこで完結させるのではなく、何らかの形で協議会と関係づけることはできないか。</p>
高沢	<p>協議会の成果を推進協などに提出したいという話はしている。</p>
○	<p>地域移行は狭い地域で考えるのが難しく、都レベルで具現化していかなければならない。“見える化”が必要。</p>
高沢	<p>部会についてのアイデアはありますか。</p>
○	<p>人材育成の部会は作れないか。都や協議会が指針等を検討し、地域に発信していく。地域移行は区市町村では目標が立てづらい、区市町村に対して都が取組について分かりやすいものを作り、伝えていくこと。</p>
高沢	<p>都の協議会の強みは、地域の協議会とのつながり、情報を伝える、相談支援について</p>

	のコーディネートが出来たりとか。
	○ 例えば、相談支援の研修のあり方を検討するところに協議会の委員が兼務して入っていくとか、協議会と情報共有を図っていくことが出来るのではないかな。
	○ 地域移行について、精神の方の場合、医療従事者が決定権を持っているが、医療の方にもこのような会議に入ってもらいたい。
	○ 協議会で地域移行のことがやりたい。
	○ 3 障害の障害特性、各障害の専門性とそこから抜き出せる汎用性について、協議会の中で切り分けて出せたらよいのではないかなと思う。ライフステージ、人材育成だけでなく、相談支援の部分でもいろいろな課題があるのではないかな。
高沢	交流会は、最初、地域協議会の立ち上げ支援の側面があった。今後の方向性については。
	○ 交流会とセミナーとの位置付けも難しくなっている。
高沢	交流会で皆さんの意見を聞き、セミナーでそれを伝えていくという意味合いがあった。
	○ 地域の個別な問題もあるが、広域的な問題をあげる場はあるのかな。
高沢	特にはない。自分のブロックでは会議があり、やっていることを伝えたりしている。
	○ ブロック会的な場はある。
	○ 問題によっては、区市町村単位より、広い範囲での協議も必要はあるのかな。
高沢	地域だけでは収まり切れない課題はある。そのひとつが地域移行などである。
	○ 当事者の参加の仕方について、当事者部会について。主役となる当事者の方がどのように協議会に参加されているのかを調べる。都協議会では本人のところに行き丁寧に説明をしている。皆さんのところではどのようにしているのかな。当事者の方のお話はとても参考になった。
高沢	動向集の調査で当事者に関することをテーマに入れた。
	○ 当事者の参加が当たり前になってほしい。
高沢	協議会を運営する事務局は事務的な業務、手続きで大変とは思う。当事者は1人だけでは代表者としてなりえない、いろいろな障害の方がいる、委員を固定するのではなく1人の枠を2人の方に入ってもらい交替して参加してもらっている。
	○ 交流会について、協議会に関わっている当事者の方の交流会をやるとか、地域協議会だけでは解決できない課題を交流会で行うこともありかな。
	○ 部会もあったほうがよい。当事者の方が基本、当事者の方が参加しやすい仕組みを都が率先して取組み、地域に伝える。
	○ 地域協議会であがった課題が都に伝わっていくと思っていたが、違うと知った。交流会が唯一、都に伝わっていく場なのだと思った。情報を受け取る場であり、グループ討議も有意義だと思った。都と地域の協議会の関係をもっと深めていければよいと思

	った。
○	委員の皆さんはすごい方が多い。中堅の人、普通の人が集まって話し合う場であつてもよいのではないか。そうすれば当事者の方、普通の人が出てきて馴染みやすい。
○	交流会について、他の地域の情報をもらえるので有意義だった。テーマについては、今後も人材育成について取り上げてほしい。